

電子本を作ろう！

高野敦志

目次

はじめに	1
ガリ版からインターネットへ 電子書籍との出会い	3
ePub3とこう規格	7
PDFの電子書籍を作る利点	12
コンテンツをどうするか	20
推敲について	23
電子書籍の作成	30
mobifファイルの縦書きと目次	45
写真集と電子書籍	61
	64

公開する際の注意点
読者を獲得するために
電子書籍を読む方法

Kindle for PC

電子書籍ePub3の脚注

最近の読み上げソフト

電子書籍を再編集する

一太郎2016について

おわりに

109103100 93 89 83 77 74 67

はじめに

本書はインターネットで電子本を作る方法を、僕自身の持つ情報に基づいてまとめたものである。国際的な電子書籍の規格、ePub は当初、横書きしかできないものだったが、ePub3の規格からは、縦書きやルビなど、日本語特有の組み版が可能となった。

ePub は画面の大きさに合わせて1行あたりの文字数が変えられるので、携帯端末などで読んでもらう場合に適している。その一方で、大抵のパソコンには Adobe Reader がインストールされており、レイアウトに凝りたい場合などは PDF が適している。また PDF の場合、実際に印刷して製本することも可

能である。

ePub を作る方法はいくつかあるが、HTML の知識が不要で、かつ初期投資の少ない方法として、ジャストシステムの「一太郎2012承」以降で、電子本を作成する方法を紹介することにする。このソフトウェアを使用することで、縦書きやルビを実現した ePub や、固定した書式でファイルがやりとり可能な PDF を、ほぼ同時に作成することができるからである。「一太郎2016」では ePub3 の規格にさらに則った形で ePub が作成されるので、バージョンアップした方がいい。

ここでは、電子本に関する基本的な情報を提示した後、文章を作成する上でのノウハウ、電子本の作成方法、その公開の仕方などを述べていく。

ガリ版からインターネットへ

作家の宮沢賢治は、自身の作品をとうしゃばん謄写版、いわゆるガリ版で刷って、配布して回ったという。ガリ版の発明自体、活字によらない印刷として画期的なもので、文集やパンフレットを安価で生産することを可能とした。新人類と呼ばれた世代が小学生だった一九七〇年代、学校の試験の多くは、まだガリ版を用いて作られていた。蠟引きした紙をやすり板の上に置き、鉄筆でカリカリ書いていく音は、父が教員をしていた僕にはなじみ深いものだった。

ワープロが発売されると、大学を卒業したばかりで余裕がなかったので、妹と半額出し合って十数万円もする機械を購入し

た。活字に權威を感じていた世代の僕らにとって、自分の文章がすぐさま活字で表現されるというのは、まさしく夢のような喜びだった。

パソコンが普及し始めてからも、ワープロで作ったデータは無駄にはなっていない。ファイルの多くはプレーン・テキストの形で、パソコンに保存することができたからである。デジタルデータは場所を取らず、複製や改変が容易である。原稿用紙の余白がなくなるほど、推敲を重ねていた時代と異なり、デジタルデータでは推敲に伴う煩わしさは、大幅に軽減されることになった。語句の挿入や削除、文章の前後の入れ替えなど、簡単な操作で行えるようになった。

手書きの作家からは、ワープロやパソコンの文章では、推敲の跡が残らない点などが批判されたが、もとの文章で気になる部分は、「断章」という形で別ファイルに保存しておく、推敲を重ねるうちに、元の文章を復元したくなったら、「断章」からコピーしてくればいいだけの話である。また、当初、一般的だった文字コード Shift-JIS では、使用可能な漢字に多くの制限があったが、ユニコード・テキストによる保存を選択すれば、大概の漢字は表記できるようになった。

パソコンでの執筆が一般化するにつれ、推敲に推敲を重ねる際の負担が減るとともに、悪筆の原稿の判読に悩まされることもなくなった。コンピュータの普及によって、インターネットの時代が幕開けし、情報の発信はマスコミなど一部の組織が専有する権利ではなくなった。

インターネットの出現によって、個人が情報を発信できるようになると、わざわざ人間が配布して回らなくても、必要とする側がサーバー上の情報を、いつでもダウンロードできるようになった。インターネットの誕生が、グーテンベルクによる印刷術の発明に匹敵する影響を、人類に与えたと言っても過言ではないのである。

電子書籍との出会い

僕が初めて電子本に触れたのは、インターネット図書館のサイト「青空文庫」においてだった。それはまた、『新潮文庫の100冊』などの電子書籍のソフトウェアが市場に出て、出版側の予想を超えた好評を博した時期でもあった。紙の本に対する魅力は捨てがたいものがある反面、インターネットの時代に、低コストで不特定の読者に、瞬時にして配信可能な電子本に、出版の可能性と将来性を感じた僕は、自分自身でも制作したいという思いに駆られた。

その電子書籍こそ、現在でも「青空文庫」からダウンロードできる「エキスバンドブック」だった。これは見やすいのに驚

いた。モニターの解像度を考えて、印刷用の本よりはフォントを大きくして、1ページあたりの文字数を制限している。もちろん、縦書きとルビもサポートしている。モニターが明るすぎないように、背景を黒とすることができ、ページ自体も目に優しいように、淡い色がつけられる。表紙や目次も設定できるし、写真はもちろんのこと、ビデオも挿入可能である。しおりや検索機能も付いている。マウスでクリックすると、ページがめくられるときのような音までする。至れり尽くせり、といった感じである。

早速、僕は「エクスバンドブック」を作成するためのオーサリングツールを、ボージャー社から購入した。結構値が張る物だったけれども。自分自身でホームページを運営していた頃、

デジタルの本が作れるこのソフトウェアで、いくつもの電子本ファイルを開示していた。

ただし、「エクスバンドブック」は、正式には WindowsMe までしかサポートしていない。すでに過去の存在と言っている。「青空文庫」ではいまだに多くのファイルがダウンロード可能となっているが、最近デジタル化された作品には、「エクスバンドブック」版はない。どんなものかご覧になりたい方は、OS が WindowsXP までなら、ボージャー社から閲覧用のソフトウェアをダウンロードすれば開ける。Windows Vista 以降では開けない。ただし、インストールされる場合は、自己責任で行っていたきたい。

WindowsXP 以降、「エクスパンドブック」は開発が止まり、先述したボイジャー社からは、後継のソフトウェアとして、T-Time が発売された。当初、このソフトウェアはホームページを縦書き表示できるという触れ込みで、同社から販売されていた。また、サポートが切れた「エクスパンドブック」のファイルでも、文字情報に限っては開くことができた。現在では無料版はドットブック形式の電子本をパソコンなどに表示し、有料版はプレーン・テキストTXTやHTML 文書を、携帯端末の大きさに合わせて、画像ファイルに書き出すソフトウェアとして販売されている。

画像であるということは、電子本の特長の一つである検索機能が、犠牲になっているということである。ただし、第三者に

よってテキストが流用される危険が小さく、出版社にとっては不安が少ない方法である。ボイジャー社のドットブックは、シヤープのXMDF形式の電子本とともに、大手出版社の電子本の配布ファイル形式として主流となっていた。

XMDF が広く流通していた理由としては、ブニコビューアというソフトウェアを用いれば、パソコンや多種の携帯端末で開ける点が挙げられる。一時はXMDFを作成する無償ツールも提供されたが、後述するePubやAmazonのKindleなど、黒船ともいふべき後発の規格に席巻^{せきけん}されていた。

ePub3という規格

アップル社から iPhone や iPod touch、iPad が発売され、電子書籍の分野でも大きな変革が訪れるのでは、と期待された。Sony から発売された読書端末 Reader は、先述したドットブックや XMDF の他、PDF や TXT、さらには ePub などにも対応している。また、Amazon の Kindle も第三世代からは、日本語のフォントを内蔵し、縦書きやルビなどに対応するなど、読書端末の中ではシェアを広げている。ただ、Kindle の場合は、ePub を直接読み込むことができず、Kindle Previewer で mobi 形式などに変換する必要がある。

国際的な電子書籍に関する規格 ePub3 が発表されて以降、日

本語の縦書きやルビなど、日本独自のレイアウトもサポートされることになった。それとほぼ同時に、ジャストシステムから「一太郎2012承」が発売され、一太郎ファイルから簡単に、縦書きルビが表示で、写真などを挿入した ePub ファイルが作成できるとされた。僕が再び、電子本作成に興味を持ったのも、実は「一太郎2012承」を購入したことと無縁ではない。

このソフトウェアを用いれば、縦書きルビの形式で写真などを貼り付けた一太郎ファイルが、瞬く間に ePub に変換されるので、レイアウトに用いられるタグ、すなわち、電子テキストの論理構造を表現する記号を知らなくても、容易に ePub の電子書籍が作成できるのである。

国際的な規格である ePub の利点の一つは、音声ファイルや

PDFなどと同様に、iTunes store から podcast という形で、多くのユーザーに提示できるという点である。podcast は個人でも自作のコンテンツを、無料で配布できるシステムである。これはホームページで電子本を公開するよりも、はるかに多くの人々に自身の作品を見てもらうチャンスをもたらす。しかも、携帯電話の多くがスマートフォンとなり、半数近くが iPhone であることを考えると、若い世代のユーザーに作品を提示する絶好の機会と感じられた。

ただし、当初は不確定な要素もあった。ePub3 への各社の対応には時間を要したからである。日本語のように縦書きを用いる言語が、少数派であることも関係していた。

二〇一二年十月末になり、状況に明るい兆しも見えてきた。

アップル社が提供するアプリ、iBooks はアップデートして、バージョンが3.0となり、ようやく ePub3の縦書き表示に対応した。これは iPhone や iPod touch だけではなく、iPad にもインストールできる。フォントの大きさが調節でき、ページを指先でめくれるのもちろんのこと、縦書きのルビも表示され、内蔵の辞書との連携もでき、キーワードの検索も可能である。ePub 内の写真もきちんと表示されている。

その他に、紀伊國屋書店が提供している Kinoppy は、パソコンのほか、iPhone や iPod touch、iPad、Android 用のソフトウェアが用意されている。無料で配布されており、Kinoppy (for iOS) なら、ePub 以外に PDF や TXT、コピーコントロールされていない XMDF も開けてしまおう。

インフォシテイ（株）が販売しているアプリ BREADER、青空文庫は、iPhone・iPod touch 用で、「青空文庫」を読むためのアプリだが、縦書きの ePub はもちろん、横書きの ePub を縦書きで表示することが可能である。内蔵辞書との連携も可能で、ページ送りも紙の本をめくる感じにしたり、画面を自動送りにすることもできる。PDF を携帯端末で読む際に、最適化した形で表示してくれる点も有難い。

パソコン対応に関しては、前述の Kinopy がもつとも、紙の書籍を忠実に画面に再現したものと言える。

ブラウザで対応が進んでいるのは、Google の chrome であるが、Readium というアドオンを組み込む必要がある。縦書きやルビに対応しており、ePub をライブラリで管理することがで

きる。文字の色や大きさ、余白、背景なども調整できる。紙の本に近いレイアウトにする場合は、背景が白で文字を黒くし、表示形式を「ダブル」にすればよい。

ブラウザの Firefox にも EPUBReader というアドオンがあり、長らく横書きにしかできなかったが、現在ではすっかり縦書きやルビにも対応した。chrome か Firefox をインストールしていれば、アドオンを追加するだけで、ブラウザを開く気軽さで電子書籍が読める環境が整ったことになる。

ちなみに、Internet Explorer は未対応であり、ePub をダウンロードすると、拡張子が zip になってしまうので、拡張子を epub に変更しなければならぬ。こうした点などは、一般の利用者には分かりにくいだろう。

なお、電子書籍を読む専用の端末には、ソニーの Reader や楽天の Kobo Touch などがある。後者の場合、拡張子を ePub から .kepub.epub に改める必要がある。そうした中で、アマゾンの Kindle Paperwhite が最有力候補と目される。アマゾンのユーザーなら、メールアドレスとパスワードの設定で、無料で提供されるクラウド上に、mobi 形式などの電子書籍が保管できるからである。

Kindle が読み込む mobi 形式のファイルは、国際的な規格である ePub を、アマゾンが独自に拡張したものとされる。パソコンでダウンロードしたり、自作した、mobi ファイルはもちろん、PDF や EXI などクラウドの指定されたアドレスへ、添付ファイルの形で送信すれば、同期する形で Kindle に転送される。

ここで注意すべきことは、mobi ファイルは読書端末の Kindle で読むことが前提となっている、という点である。iOS 用アプリの Kindle では、縦書きのファイルでも、ルビが削除されて横書きに表示されてしまう。ただし、アマゾンからダウンロードした電子書籍は、たとえ価格が無料のものでも正常な縦書きが維持されている。

PDFの電子書籍を作る利点

では、新たにソフトウェアをインストールすることなく、誰でも見られる形式のファイルは、というと、大抵のパソコンには Adobe Reader がインストールされているから、PDF ならダブルクリックするだけですぐに読める。縦書きもルビも当然可能で、検索機能も付いている。写真などを組み込んで、凝った制作をした場合でも、PDF ならレイアウトが崩れることなく表示される。

PDF が電子本かという疑問をお持ちの方も多いだろうが、表紙をつけて最適化したレイアウトを施せば、立派な電子本として体裁を整えることができる。印刷した本とは違って、PDF

を画面で見える場合には、フォントをやや大きめに設定し、各ページの大きさを小さくして、余白がグレーで表示されるようにするといいい。まぶしさによる目の疲れを防ぐためである。これに関しては、電子本を作る方法を説明するときに、詳しく述べることにしてしよう。

しかも、印刷することが可能なので、少数でも引き受けてくれる業者に頼めば、数部を紙の本として製本することもできる。機械に不慣れな年配者には、やはり紙の本が一番だからである。

ちなみに、以前ネットで公開した PDF の作品を、親族や友人にも見てもらおうと、小冊子を作成したことがある。通常の自費出版なら百万円かかる。そんな大金がなくても、表紙のデザインから目次の作成までしておけば、小遣い程度の費用で作

成することは可能である。

ただし、印刷屋に出す PDF は見開きの形式ではなく、一ページずつ表示するように、「一太郎」で設定し直さなければならぬ。僕が頼んだ大阪の業者は、百ページで五百円、五部以上なら引き受けてくれた。十冊作って五千元、一部五百円かかったことになる。

コンテンツをどうするか

どんな電子書籍を作ろうとお考えだろうか。手持ちの文章を書きためていれば、エッセイ集とか旅行記や、自分史を残したいとか。中には自分の小説や詩集を發表したいとか、人それぞれ動機は異なるだろう。

ここでは、文章を中心とした電子本の作り方を考えていきたい。エッセイや小説の書き方は、他書に当たっていたかどうかにして、書く材料をどうすればいいかという、基本的な問題に限って考えることにする。

僕の場合、中学生の頃に、父に日記を書くように言われて、五十代となった今でも書き続けている。日記というものは、型

にはまらず自由に思索する上でもってこいである。ただ、コンピュータでプレーン・テキストの形で日記を書くようになったのは、まだここ数年であって、それ以前の記述はノートを読み返すしかない。今から日記を書くこととなさっている方には、ぜひとも、デジタルの形で記録することをお勧めしたい。

その際、エディタでもワープロのソフトウェアでもいいから、ユニコードのプレーン・テキストで書くこと。Shift-JISでは、用いることができない漢字が多く出てきてしまう。写真を貼り付けられる日記のソフトウェアなどは、たとえ外観が良くても使ってはいけない。OSが変わって開けなくなっては、それまで集めた情報がふいになってしまいうわけだから。

デジタル化した日記は、あなたにとって、生きてきた証あかし

なる。語り合った際に心に残った言葉、街角で見かけた美しい風景、旅先での出会いの一コマ、何でもいいから、後で思い出せるように書き残しておく。この習慣を続けていけば、あなたの人生は過去から連綿と続く時間の流れとして、確実に心の中に刻み込まれ、その文を読み返すときには、かつての感動が現在の出来事のようによみがえってくる。人に見せる文章を書く前に、そうした習慣を身につけておくことが大切である。

あとはやりとりしたメールの一部でも、記憶に残したければ日記に貼り付ける。iPhoneなどの携帯端末で書いたメモは、メール経由でパソコンに移動させ、日記を書くときに推敲すればいい。すぐに役立たなくても、アイデアは確実に集積していく。

何かのテーマで文章を書きたくなったら、エディタやワープロの検索機能を用いて、日記のキーワードを順にたどっていく。その語が含まれた文を見渡して、書こうとしている文章の全体を思い描いてみよう。

ただし、パソコン上の日記は、まだ人に見せられるような代物ではない。膨大な文章の中で使える部分は、ごくわずかである。また自分では理解していても、いきなり本題からでは、読者に理解してもらえないこともある。日記とは別に、人に見せるための文章も書きためていった方がいい。

それがブログである。多くの人はブログを、単なる日記と取り違えている。うちの子どもが運動会で一等賞になったとか書いても、喜んでくれるのは身内かせいぜい友人だけである。第

三者にはあまり関心がない。facebookに僕が乗り気でないのも、それが人間関係を構築するには役立つとも、書かれている文章自体は、読み返すに値しないものがほとんどだからだ。

個人で書く日記は単なる素材に過ぎず、そこから文章になりそうな部分を抜き出し、一つのエッセイなどに膨らませていけばいいのである。日記をつけることと、ブログを書いていくこと、これをあなたの日課にしていくといい。

では、ブログを始めるとして、どんなサービスを選ぶべきかという点、podcastに対応していて、アクセス解析ができるサイトが望ましい。その条件に合致しているのが、Seesaaのブログである。無料で続けられるし、書いた文章に毎日の程度ア

クセスがあるか、確認できるからである。それによって、どんなテーマに関心が持たれているか、どんな文章が好評をもって迎えられたかが分かる。

無料の情報発信とはいえ、文章を書くことを人生の中枢に据えていきたいなら、ブログは文章修業の実践の場だと考えられる。テーマによっては、読者からの反応も得られるし、アクセスが増えていけば、新たな文章を書く励みにもなるからである。

ブログはテーマ別に分類可能であるから、複数のジャンルに文章を分けて登録するといふ。ブログに載せたものは、アップロードするごとに、ジャンル分けした形でエディタやワープロに保存しておくこと。これを怠ると、せつかくのブログが書きっぱなしになる恐れがある。

文章を書きためたところで、電子本を構成するに足る文章があるか、特定のジャンルのものを確認する。例えば、あるテーマのエッセイ集を出すとしたら、何が足りないか考え、全体の構成を思い描いた上で、補うべき部分を日記で下書きし、推敲したものをブログに発表する。

章立てが決定した段階で、ワープロかエディタで空のファイルを作成し、予定した章ごとに貼り付けてみる。全体を読み直して、不足した部分を書き足していき、重複した部分を除いて、全体の調和を図るのである。

推敲について

推敲は気の済むまで行った方がいい。説明不足の点はないか、同じ内容が重複していないか、文が冗漫すぎないか。書いた文をすぐに人に見せるのではなく、最低一日おいて読み返した上で書き直すと、自分の文章の欠点を見つけやすい。また、声に出して読んでみると、文章上のリズムをつかむ感覚が得られる。文章を推敲していく際のこつについて、詩人で仏文学者の窪田般彌はんや先生に教えていただいたことがある。それは類語辞典を用いるということだった。どうしても的確な言葉が見つからないとき、類義語から目当ての表現を探し当てることができらるらである。僕は早速、角川書店の『類語国語辞典』を買った。

これは後述する『角川類語新辞典』を増補したものである。

類語辞典は物書きには必須の辞典だが、実際に考えながら書いている(キーボードを打っている)ときには、紙の辞書を引いたりしてしていると、思考の流れが途切れてしまう。的確な言葉が頭に浮かばないと、文が続かないような折でも、ゆっくり辞書を引いてはられない。

そんな場合には、ソフトウェアとなった辞書が便利で、とりわけ、ワープロソフト「一太郎」に付属している ATOK の連想変換という機能が有効である。これはキーの操作だけで、類義語が列挙されるわけだから、これほど便利なものはない。

ATOK には『日本語つかいさばき辞典』が付属しているが、『角川類語新辞典』もオプシオンでインストールできる。両者は相

互補完の関係にあり、一方にしか出てこない類義語がたくさんある。なお、後者の方が語釈が丁寧で、例文などもついているので、ATOK の連想変換の機能をフルに生かすには、『角川類語新辞典』のインストールが必須だと思われる。

さらに「一太郎2013玄」のプレミアム版を購入すれば、複数の ATOK 用辞書『大辞泉』『角川俳句歳時記』『ジーニアス英和英辞典』など、単体なら高価な電子辞書が付いており、ATOK の「連想変換」に組み込まれることで、これらの辞書の語釈も加わる。

さて、ソフトウェア化された類語辞典は、他にもいろいろある。学研から発売されていた『Super 日本語大辞典 全 JIS 漢字版』（生産終了）には、簡単なシソーラスがついているから、たいていはこれで間に合ってしまう。『明鏡国語辞典』にも類語・関連語の項目があるが、この手の物で最大規模の収録語数を誇るのが、PC 用のロゴヴィスタ版『日本語大シソーラス』である。

これは膨大な語や慣用句が収録され、古典からの引用も多いので、購入を考えておられる方も多いだろう。書籍版は重すぎるから、書棚のインテリアになるのが落ちである。iPhone などをお使いなら、iTunes Store から iOS 版も買えるけれども、他の辞書との連携ができない。もし迷っておいでなら、PC 用のロゴヴィスタ版をお勧めしたい。

ところで、この『日本語大シソーラス』の編者、山口翼氏^{たすく}は言語学者ではない。小説を書くために、自分の語彙を増やそうとして、用例をかき集めているうちに、それが稀代の大シソーラス編纂へと結びついたというのである。中国の古典から俗語に到るまで、引用された表現の多様さには目を奪うものがある。収録されたものをざっと眺め渡すだけでも楽しい。文章を練り上げていく過程で、どうしても的確な表現や慣用句が見つからないときなどに、心強い味方になると思った。

ただし、問題点がないわけではない。PC用の『日本語大シソーラス』は、普通に言葉を入力して類義語を探そうとしても、その言葉がヒットしないことが多いのである。その点が『角川類語新辞典』などとは大いに異なる。では、どうやって引いた

らいいのか。

Logovista 辞典ブラウザを用いる場合、検索欄に何も入力せず「メニュー検索」をクリックすると、「トップメニュー」が現れる。これは国立国語研究所の『分類語彙表』に基づく分類である。「抽象的關係」「位相・空間」「序と時間」といった大分類が現れる。「抽象的關係」をクリックすると、「関係がある」「関係がない」「影響」といった中分類が現れ、さらに「関係がある」をクリックすると、小分類の「関係ある」「縁がある」「縁続き」などが現れ、その下位に実際の類義表現が列挙されているのである。推敲している折などには、この方法で的確な言葉を探していけばいい。

ちなみに、推敲する際に音読する代わりに、コンピュータに読ませるという方法がある。かつては実用とはほど遠い水準だったが、「一太郎2013玄」以降のプレミアム版を購入した場合、文章を読み上げる機能「詠太」を利用するのもいい。それがどの程度のものであるか、ネット上のデモンストレーションで確認してみるといいだろう。

男性1名、女性2名の声の中から選択し、話すスピードも調整できる。「一太郎2016」では、さらに英語の読み上げにも対応した。自分が書いた文章を読ませてみると、耳で聞いて快い文章であるかどうか分かる。練り上げた文章なら、他人に読んでもらったような印象を受ける。

ルビがついている場合も、ルビの部分だけ正確に読んでくれる。ルビの表記については、印刷する場合は、拗音の母音部分も大きい字で表記するのが通則である。ただし、読み上げ機能を使用する場合は、拗音の末尾の部分は手書きのように、小さい字で入力するようにする。実用レベルに達していることは確かで、発音が複数ある漢字や、固有名詞などで読み間違えることはあっても、イントネーションもおおむね共通語に則っている。

推敲のほかに、「詠太」に他人の文章を朗読させてみよう。専用のプラグインを有効にして、ネット上のニュースを読ませてみるといい。アナウンサーに読んでもらっているようであり、疲れているときに耳でニュースを確認することができる。

「青空文庫」の文学作品は、新仮名でルビなしのテキストを、「一太郎」に貼り付けて読ませるといい。XHTML ファイルのままだと、漢字の発音とルビの部分が重複して読まれてしまう。ルビを一太郎形式に変換する「一太郎」用のマクロ「ルビ付与（青空文庫に対応）」も公開されているが、使用する場合は自己責任で行うことになる。でなければ、手作業が必要となるが、「青空文庫」のファイルの一部は、すでに「一太郎」ファイルに変換され、「一太郎」で『青空文庫』で公開されている。歴史的仮名遣いの作品だと、期待通りに読んでもらえないのは言うまでもない。

最後に、「詠太」に正確に読ませるための方法について、補足しておくことにしよう。「詠太」も「一太郎2013玄」でバージョンアップされ、読み上げの精度をさらに高める機能として、「CSV ファイルから辞書への一括登録」が可能となった。一つ一つの単語を登録するのが煩瑣な場合、ATOK などの IME に登録されている語を、登録することも可能である。

ただし、ATOK と「詠太」とでは、用語や分類の基準が異なり、単語と読みの表記、項目の提示順序など、さまざま違いがあり、自動で変換することはできない。まずは、「詠太」の「辞書作成ツール」を確認しておくといい。人によって環境が異なるので、一つ一つの手順を示すことはできないが、その人なりに解決するヒントを、以下に説明していくことにする。

ATOK の「メニュー」から、「辞書メンテナンス」「辞書ユー

「テリリテイ」を起動する。次に「ツール」から「単語・用例の一覧出力」をクリックする。登録可能な例は5000程度である。「単語出力」のタブで、「Unicode」で出力する」にチェックを入れ、単語種類は「登録単語」に限る。対象品詞は「設定」で固有名詞などを選択する。「単語コメント情報を出力する」にはチェックを入れない。「ファイル名」を入力して「実行」をクリックする。

出力されるのは、「テキスト」ファイルである。これをCSVファイルに変換するには、エディタなどで開いた「テキスト」を「全部選択」して、Excelに貼り付け、CSVファイルとして保存し直す。

「詠太」の「辞書作成ツール」では、1列目が「単語」で、2列目が「発音」、3列目が「品詞」、4列目が「動詞の活用」である。4列目に関しては、動詞に限って「1段活用」か「5段活用」か記入し、それ以外の品詞の場合は空欄にしておく。この順序にしたがって、ATOKの「単語・用例の一覧出力」から作成されたCSVファイルの「列」を、入れ替えていくのである。

Excelの「列」の順序を変えるには、「列」の挿入を行った上で、該当する「列」をすべて選択して、挿入した「列」に移動した後、不要となった「列」全体を削除する。

ATOKから出力したファイルの読みはひらがなだが、「詠太」に登録するにはカタカナに変換しなければならない。「発音」の書かれた「列」をすべて選択して、エディタにコピーした上

で、「ひらがな」をすべてカタカナに変換する。この機能を持つソフトウェアには、例えば「OXエディタ」がある。カタカナになったところで、Excelの「発音」の列にコピーするのである。

品詞の名称もATOKと「詠太」とでは異なるので、「一太郎」の「置換」機能で「1つずつ確認しながら置換する」のチェックを外して、一括して「詠太」の用語に置換する。または、エディタの「変換」の機能を用いて、一括して置換するのである。例えば、「固有人姓」↓「姓」、「固有人名」↓「固有人他」↓「名前」、「固有地名」↓「地名」、「固有組織」↓「企業名」、「固有商品」↓「固有一般」↓「その他の固有名詞」といった具合に一括して置換する。

作業がすべて終わったら、「詠太」の「辞書作成ツール」で作成したCSVファイルを読み込む。これで追加した語が「詠太」によって正確に読まれるようになる。

その後、「詠太」の「辞書作成ツール」から、単語や複合語などを追加したくなるかもしれない。例えば、「東海林」という「姓」を登録する場合、長音を含むので、通常の表記である「ショウジ」ではなく、発音通りの「ショージ」で登録する。「値が張る」のような慣用表現は、「動詞」の「5段動詞」として登録する。作業が終わったら、「エクスポート」して、CSVファイルの更新を行っておく。

ただし、「入る」のように、「はいる」と「はいれる」という複数の読みが、文脈によって決まる場合、いくら登録しても、

「詠太」では対応できないようである。ルビをつければ、この種の読み違いは防げる。

なお、より正確に読ませるには、日本語のアクセントも登録する必要がある。単語別にアクセントを設定する方法については、「最近の読み上げソフト」の章で詳述することにする。

電子書籍の作成

ジャストシステムの「一太郎2012承」以降で、電子本を作る際の留意点について、僕が気がついた範囲で記すことにしよう。電子本として配布するファイル形式としては、podcastで配布することを考え、ePubとPDFの二種類を用意する。「一太郎2012承」以降では、いずれのファイル形式にも変換して保存できる。さらに、「一太郎2013玄」ではアマゾンの読書端末、Kindle Paperwhite用のmobi形式にも変換可能になった。「一太郎2016」では、表紙を作るための多数のテンプレートが加わった。

もし、金銭的に余裕があれば、最新版の「一太郎」を用意した方がいい。ブラウザにアドオンをインストールして表示する

場合などで、古いバージョンで作成した ePub では、目次に不具合が生じるからである。ただし、ePub を iBooks で表示したり、PDF 版を作るだけなら無視できるのだが。

iPhone や iPod touch などの携帯端末で閲覧してもらうには、ePub がふさわしい。一方、パソコンで見るとは PDF が最適である。実は、「一太郎2016」には、ePub 形式の電子書籍を作成するため、「書籍編集」のツールパッドが用意されている。ただし、ここでは ePub と PDF さらには、Kindle の mobi ファイルを効率的に作る方法を紹介することにする。なお、Kindle の mobi 形式については、podcast ではなく、自分のブログで公開するか、アマゾンで販売することが前提となる。

もし「一太郎2012承」以降をお持ちなら、作業を始める前に「JUST オンラインアップデータ」で、ソフトウェアを最新の状態にしておくこと。次に、「一太郎2012承」なら「ナビ」「よく使うテンプレート」「テンプレートを開く」から「EPUB」を選択する。「一太郎2013玄」なら「ファイル」「テンプレートを開く」から「EPUB」を選択する。「一太郎2016」なら、右端の「メニュー」をクリックし、「オプション」で「書籍編集」が表示できるようにする。いったん終了してから再起動すれば、パレットに「EPUB 編集ツールパレット」が表示されるようになる。どんなスタイルがあるか、ざっと目を通してレイアウトを考える上でのヒントにする。

ただし、ここでは PDF も同時に作成することを考え、テン

プレートは使わないことにする。「ヘルプ」に epub と入力して、「EPUB 形式の電子書籍を作成するテクニック」の項目を読んでもおう。Adobe Reader で PDF を表示する際に、「エキスパンドブック」と同様のレイアウトにするために、「文書スタイル」を以下のように設定する。

用紙 A5 単票・横方向

文字組 縦組

字数 28.0字

行数 12行

字間 1%

行間 50%

余白は上端と下端が14mm、左右が16mm、中央が25mm。

フォント MS 明朝 12ポイント

本文は「一太郎2012承」以降で打ち込んでおく。エディタで文書を管理している場合には、テキストを流し込んでから、必要に応じてルビなどを振っていく。ここで注意しなければならないのは、「改ページ」と「目次」である。

まず、「改ページ」について述べる。各章の終わりなど、余白を残して強制的にページを変えるには、「改ページ」のマークを打ち込んでおく必要がある。

あらかじめ「改ページ」したいページに移動しておく。「改ページ」は「挿入」から「記号リーダースペース」、「改ペー

ジ」とたどっていく。「改ページ」する直前のページの最終行にカーソルを置いてクリックすると、「改ページ」のマークが入る。次のページが1行ずつずれるので、適宜調整するといひ。「改ページ」のマークを打ち込むことは、PDFで電子本を作る場合は重要ではないが、ePubでは必須である。

次に、「目次」についてだが、ePubで有効にするには、「一太郎」で目次の設定をしなければならぬ。単にリンクを張るだけでは、目次として機能しないということである。

具体的な方法を以下に述べる。本文をすべて打ち込んでしまったら、目次にするために1ページ（または必要なページ数）を空けておく。「ファイル」「文書スタイル」「スタイル」とたどり、「ページヘッダ・フッタ」のタブをクリックし、「ペー

ジ番号詳細」をクリックする。ePubの場合なら、「目次用ページを使用する」で1ページ（または必要なページ数）と設定する。PDFの場合には、それ以外に「表紙用ページを使用する」の項目も設定しておく。

本文内の章のタイトルを選択したら、「ツール」「目次索引」「目次設定解除」とたどり、「目次1」が選択されているのを確認して「OK」をクリックする。各章のタイトルに関して、これを繰り返しておく。その際、「挿入」「ブックマーク」「カーソル位置をブックマークに追加する」とたどり、各章のタイトルに「ブックマーク」も設定しておく。

目次に設定したページに戻り、「ツール」「目次索引」「目次作成」までたどり、「目次1」のタブに関して、「目次にする」

にチェックが入り、「ページ番号位置」が「付けない」になっているのを確認した後、「OK」をクリックすると、目次用のページに赤い破線に囲まれた各章のタイトルの現れる。その直前の行に「目次」と打ち込み、レイアウトを整える。

この目次の設定がないと、ePub では有効なリンクが生成されないのである。これで準備が整ったので、目次のページに移動し、目次内の各章のタイトルを選択し、「挿入」「ハイパーリンク」とたどり、「作成／変更」をクリックし、「ブックマーク」の「一覧」をクリックし、リンクを張りたい「ブックマーク」を選択する。あとは、その繰り返しで、目次の各項目と各章をすべてリンクしていけばいい。

本文にハイパーリンクを張りたい場合には、「挿入」「ハイ

パーリンク」「作成／変更」をクリックして、URL を記入する。別途、表紙などのファイルも、フォトレタッチツールなどで加工しておく。大きさは縦1024px、横724px としておく。なお、画像の著作権には注意すること。テキストのフォントは、パソコンに付属しているMS明朝かMSゴシックに指定しておく。明朝体の方がきれいだし、WindowsXP の場合には、ユニコードの一部の文字が、ゴシックだと表示されない可能性がある。インデントの設定は可能である。

画像は1ページに一枚に限ること。画像の説明文を含んだ画像を作るようにしておく。というのも、画像の下に説明文を文字として記入した場合、PDF では問題なのだが、ePub だと画像と説明文が別ページになったりして、非常に見栄えが悪く

なってしまうからである。説明文を画像に組み込む際には、フォントによっては JPEG に変換すると摩滅してしまうので、フォントを太めにするなど調整する。

ePub で写真集などを作るのはお勧めできない。画像の配置がアンバランスになったり、ソフトウェアによっては文中に表示されなかったりするからである。ただし、「一太郎2013玄」では、端末に合わせて形を変える「リフロー」に加え、漫画などのための「固定レイアウト」にも対応した。

画面の小さい携帯端末では、表示する文字数を微妙に調節できる「リフロー」が便利である。文字情報のままなので、辞書アプリで分からない言葉を指定すれば、簡単に調べることができる。一方、写真集や漫画などは「固定レイアウト」にしない

と、期待される効果が損なわれてしまう。ただし、画像化されているので、意味を調べたい場合は、辞書アプリを起動して、言葉をいちいち打ち込まなければならない。「固定レイアウト」では、画像の種類や画質、サイズなども調整できる。とはいえ、「固定レイアウト」の ePub を作るくらいなら、PDF を用いた方がいいのではないかという疑問も生じる。

全体のチェックが終わったら、一太郎ファイルを ePub 形式で保存する。「EPUB 保存」をクリックすると、「EPUB ファイルのプロパティ」が現れる。「タイトル」「作成者」を記入し、言語は「日本語」を選択する。「表紙」をつける場合には、準備しておいた画像ファイルを指定する。「キーワード」は半角カンマをはさんで指定する。「説明」を短く書いた後、「発行

者」「著作権」も自身の名前を記しておく。ISBN は販売するときのコードだから空欄にしておく。「作成日」「発行日」「更新日」は自動で入っているだろうから、「保存」のボタンを押せば、十秒程度で出力される。パソコンと携帯端末で表示されることを考え、先述した ePub 関連のソフトウェアで開いて、表示を確認しておくこと。

次に、「一太郎2013文」以降で Kindle の mobi 形式に変換する方法を述べる。ePub と異なる点を言えば、目次のページを作成せずに、各章のタイトルを選択し、「目次設定」するにどめておくという点である。目次自体は Kindle 用が自動で生成される。一太郎で目次のページを作成してから mobi に変換し

た場合、一太郎が設定した目次と、Kindle 用の目次が重複するという不具合が生じる。

原稿のチェックを終えたら、一太郎ファイルを mobi 形式で保存する。「mobi 保存」をクリックすると、「kindle/mobi ファイルのプロパティ」が現れる。「タイトル」「作成者」を記入し、言語は「日本語」を選択する。「表紙」をつける場合には、準備しておいた画像ファイルを指定する。「種類」は「リフロー」を選択し、「キーワード」は半角カンマをはさんで指定する。「説明」を短く書いた後、「発行者」「著作権」も自身の名前を記しておく。ISBN は販売するときのコードだから空欄にしておく。「作成日」「発行日」「更新日」は自動で入っているだろうから、「保存」のボタンを押せば、十秒程度で出力され

る。

なお、今述べた方法が煩瑣なら、ePubを作成した上で、Kindleプレビューツールで、Kindle用のmobiファイルに変換できる。また、すでにePubファイルを持っていて、それをmobiに変換したい場合も、プレビューツールを利用すればいい。Kindle用の目次は表示されないが、一太郎で作成した目次は、Kindle上でもリンクが有効である。

いずれにしても、Kindle Paperwhiteに正しく表示できるか確認するため、同ツールは事前にインストールしておいた方がいい。

最後に、PDFを作ることにする。ePubを作成した時の一太

郎ファイルを、PDF用に別名で保存し直す。「ファイル」「文書スタイル」「スタイル」「ページ／ページ・フッタ」とたどり、「ページ番号詳細」で、「表紙用ページを使用する」にチェックを入れ、「表紙用ページ」に「1」と設定する。「目次用ページを使用する」の欄は、ePubで設定したときのままにしておく。

PDFでは「表紙用ページ」に、表紙となる画像を貼りつける。「目次」のページは、リンクが有効となっているタイトルの下に、ページ数を半角数字で書き加えればいい。

ページ数を記入してしまったら、目次のページ全体を選択して、「書式」「文字割付」「縦中横一括設定」とたどり、「行の幅に収める」にチェックを入れて、「対象文字数」を設定して、

三桁のページ数でも縦に表示できるようにする。チェックを終えたところで、PDFの形式で保存すればいい。

なお、ePubやmobi、PDFでも言えることだが、実際にインターネットで公開する場合には、ファイル名は半角のローマ字で表記しておいた方がいい。

mobiファイルの縦書きと目次

「一太郎2013玄」がアップデートされ、Kindleのmobiファイル作成に対応した。AmazonのKindleが登場したことで、個人による電子出版も現実的になったことから、この対応に期待を抱いた人も多いことだろう。

AmazonのKindle Paperwhiteや、パソコンやAndroidのKindleで開く分には、mobiファイルでも問題ではない。ただし、作成された縦書きのファイルは、iOSで開くと横書きにされてルビも脱落してしまう。電子書籍の体をなしていないのである。縦書きのmobiファイルを、友人がiPadで開いたら横書きになったなんて、笑うに笑えない話である。

ただし、Amazon からダウンロードした電子書籍は、著作権が切れて無料配布されているものも含めて、iOS でも縦書きで表示される。拡張子が azw で、mobi とは異なっている。Amazon で azw に加工されたファイルは、iOS でも縦書きで表示される仕組みになっているのである。

本当は iOS 版の kindle アプリが、mobi ファイルの縦書きやルビに対応してくれればいいのだが、iOS 版での問題を回避する方策は、すでに Amazon から提供されている。

Kindle Previewer をダウンロードし、縦書きで作成した ePub や mobi のファイルを開く。その際に、デバイスの設定を Kindle for iOS しておく。すると、iOS でも縦書き表示が可能な、azk

ファイルに変換してくれるのである。

ただし、変換に失敗することは多い。ファイル内に、半角スペースが存在する場合に、この現象が発生するとの情報を寄せてくれた方がいた。僕自身、自分が作成した mobi ファイルの azk への変換には成功していない。

しかし、たとえば azk ファイルに変換できても、Amazon のクラウドへメールで転送できないから、Amazon で出版するのになければ、Kindle の端末で読んでもらうためには、mobi ファイルを作成するしかないのである。

写真集と電子書籍

写真集を電子書籍で作成したときに、いくつか気づいたことがあったので、ここで指摘しておきたいと思う。

電子書籍 ePub は、iOS の iBooks や紀伊國屋書店が提供しているアプリ Kinoppy で、ご覧になっている方が多いだろう。端末のサイズに合わせて一行の文字数が変化するので、ポートブルな端末で読むのに最適である。ただし、固定レイアウトの ePub もあり、つまり、PDF と同じではないかと思っていたが、大きな違いがあった。

PDF の場合には、画像も文字も編集中のワープロファイルがほぼ再現される。画像は圧縮されるようだが、文字は鮮明なままである。一方、固定レイアウトの ePub の場合、文字も含めてページ全体を画像化する。そのために、明朝体のフォントなどは一部が欠けてしまい、非常に読みにくいものとなる。固定レイアウトの ePub は、漫画など一部の電子書籍にしか向いていないようである。

写真集を電子書籍にする場合、PDF にするのがもつとも無難である。画像は圧縮されるので、鮮明度がやや落ちる気がするが。一方、リフローの ePub の場合、本文と画像はリンクされているだけなので、解像度が高い鮮明な画像が見られる。ただし、写真と本文の表示は端末に左右されるため、レイアウトの乱れは避けられない。

iPad の iBooks で見る場合、写真の一部が表示されないとき

は、画像にタッチすれば、リンクされた写真が全画面で現れる。Windows8のユーザーなら、EPUB Reader をダウンロードすればいい。写真表示を最優先する仕様なので、解像度の高い写真が大きく美しく写し出される。ただし、そのためにレイアウトに多少の乱れが生じる。

公開する際の注意点

実際に電子書籍ができれば、とりあえず、Secsaa のサイトにアップロードしてみよう。作った電子本を実際に第三者に見てもらおうのである。また、多くの電子本がアップロードされているサイトに登録するという方法もある。ただし、コンテンツが豊富なサイトでは、かえって自分の作品が目立たないことになり、意外にダウンロードしてもらえないものである。

有料で売り出そうなんてやめた方がいい。ポルノとかハウトゥ本なら分らないが、小説やエッセイはプロのものでなければ、金を払ってもらえないだろう。とにかく読者に目を通してもらい、評価を仰ぐのが先決である。

もしある程度、自信がある作品ができれば、iTunes Storeのpodcastに申請してみよう。Seesaaにアップロードした電子本を、アップル社に審査してもらおうのである。注意点はアップル社の「よくある質問：podcastを作るには」のページで確認する。過激な性や暴力の描写があると、却下されるかもしれない。許可された場合には、数日以内にメールで連絡が来る。

iTunes Storeのpodcastにスペースがもらえたら、月に一回以上新作をアップロードしていく。正式に登録されれば、日本だけはでなく、欧米や中国、韓国のサイトからも、podcastのリンクが張られる。iTunes Storeでの掲載期間は約一週間だから、コンテンツがなくならないように注意する。ePub版を公開して、掲載期間が終わる頃にPDF版をアップロードすればいい。

一定のダウンロード数を確保するように、Twitterなどで宣伝していこう。

忘れてはならないのは、Seesaaで電子書籍を公開するとき、同一のブログに二つ以上のコンテンツをリンクしても、アップル社のコンピューターは一つしか、iTunesにリンクを作成してくれないということである。

iTunes Storeのpodcastに登録された場合、ePubやPDFはどのようにダウンロードされるのだろうか。ファイル自体はSeesaaのサーバーにあり、iTunesはリンクをたどってファイルをユーザーのパソコンに移動するのである。iTunesは本来、音楽を管理するソフトウェアであり、iTunes上でクリックした作

品は、マイミュージックの幾層も下のフォルダにダウンロードされるのである。

要するに、iTunes からダウンロードする場合は、マイミュージック→iTunes →iTunes Music →podcasts →当該のフォルダの下に、ファイルが入るといっわけである。なお、ePub の場合、Internet Explorer でダウンロードすると拡張子が zip となるので、それを epub に変更してもらおう。

電子書籍が「マイミュージック」にダウンロードされるなんて事情は、多くの人には知られていない。したがって、その辺の説明はアップロードするページで、必ずしておいた方がいいだろう。

iPhone などでダウンロードする場合には、podcast のインス

トールが促される。購読している podcast の形で、ファイルは管理されることになる。

今述べた方法以外にも、自作の小説などを、ePub や PDF のファイルをアップロードできるサイトがある。僕が最初に試みたのは、Puboo である。ジャストシステムの「一太郎」と連携していたので、作品を投稿された方も多いだろう。

無料版とプロ版があるが、サイト内で作成するのではなく、すでに作成された ePub や PDF をアップロードするには、月額 540 円のプロ版に登録する必要がある。プロ版では審査にパスすれば、「Kobo イーブックストア」と「Kindle ストア」でも販売することが可能となる。

ただし、ノウハウ本や写真集、ポルノ以外は、プロ作家でなければ売れないだろう。そもそも、読まなければ始まらないのだから、読者も持たないのに有料で出そうという方が間違っている。

無料で ePub や PDF の電子書籍を配布できるサイトに、iPadZine がある。iPad で直接ダウンロードできる点で、読者の目に触れる可能性が高まる。カテゴリーが多岐にわたっており、内容が充実している印象を受けた。

ブログ Seesaa が運営する forkN がある。Puboo とスタイルが似ているが、こちらは登録は完全に無料で、有料で販売した作品が売れた場合のみ、手数料が生じる。ePub と PDF が配布できるが、縦書きやルビ対応の電子書籍を出すには、PDF を選

択することになる。forkN のエディタ、ビューアは縦書きに対応していないので、ユーザー自身で縦書きの ePub を作成し、読者はダウンロードしてから、縦書き対応のソフトウェアで開いて見ることになる。

今紹介した以外にも、Amazon の Kindle ダイレクト・パブリッシング (KDP) から「直接販売する方法」もあるが、無料で電子書籍を出品して、ある程度手応えを感じてからの方が無難だろう。

読者を獲得するために

ただ、電子書籍を書いて発表しても、知人以外にも読んでもらえなければつまらない。そのためには、日頃からブログを書き続けて、潜在的な読者を増やしていかなければいけない。また、ブログで書き続けたものを、電子書籍にまとめ直せば、改めて読み直してもらええる可能性がある。

僕は以前から、podcastをやっているのだが、それを維持するためにも、読者を少しずつでも増やさなければと思っている。ただ、内容のあるブログを書いているれば、読者が自然に増えるわけでもない。宣伝もしなければ、無数にあるブログの中から、ページを見つけてもらえないからである。

Facebook はコミュニケーションの道具としては優れているが、自身のブログばかり宣伝していると、自分勝手だという印象を持ちられてしまう。そこで、ブログの宣伝は、「ブログ村」のサイトと連携する以外は、もっぱら、Twitterで行っている。Facebook よりもよりも、幅広い人に目を通してもらえるからである。

ブログの数が増えてくると、過去にどんな記事があったか、新しい読者には伝わりにくい。僕がやっている Sessaa の場合、検索の窓があつて、「記事」のボタンを選択し、キーワードを押して検索すれば、該当する単語を含む記事が出てくる仕組みになっている。また、カテゴリー別や投稿日から記事にたどり

着くこともできる。よく出来ているとつくづく感心してしまう。以前、僕はそれを個人のホームページで実現しようとしたが、あまりのハードルの高さに断念した。ブログのサービスを利用すれば、ネット配信の技術的問題にわずらわされることなく、自己表現に専念できる。いい時代になったものである。

一定以上の記事がたまったら、かつての記事でも気に入っているものがあれば、Twitter でツイートするといい。新たな読者を毎日一人でも得られるように努力していききたいものである。

電子書籍を読む方法

オープン・ソースの ePub は、今や電子書籍の標準規格である。かつてはシャープの XPDF が幅を利かせていたが、使用料が高かったことで、Amazon の kindle に押されていた。シャープの端末ザウルスも、いつしか消滅してしまった。

kindle のファイル形式のうち、mobi は ePub の拡張形式と見られ、「二太郎」で編集すれば、比較的容易に作成できる。ただし、mobi は iOS 版の kindle で表示しようとすると、縦書きが横書きになり、ルビも有効ではないので注意を有する。

専用の読書端末には、ソニー・リーダーや楽天の Kobo Touch などがあるが、Kindle Paperwhite などで表示するには、事前に

ePub を Kindle Previewer で mobi などに変換しておく必要がある。

パソコンの場合、かつて Adobe Digital Editions が日本語もきれいに表示していたが、もともと英語版なので、現在のバージョンでは日本語に対応していない。

calibre は電子書籍の形式を変換できる優れたものだが、縦書きの日本語には未対応である。英語や日本語の横書きしか読まないなら、問題はないだろう。

Google の chrome を使用しているなら、アドオンの Radium を組み込めば、ブラウザから ePub を表示できる。もちろん、縦書きやルビにも対応している。詳しい使い方については、「電子書籍 ePub3 の脚注」の章で触れることにする。

Firefox にもアドオンの EPUBReader があり、縦書きやルビなどにもようやく対応した。

Windows8 には ePub 専用のアプリ EPUB Reader があるが、インデントなど一部のレイアウトが反映されない。ただし、写真は高解像度で表示する。おまけ程度ではあるが、音声読み上げ機能もついている。

どうやら、紀伊國屋書店の Kimopyy が、パソコン上で最も美しく ePub のファイルを表示するようである。紙の本同様のレイアウトにこだわった成果だろう。

さて、iOS の場合だが、ePub の規格によく対応しているのは、アップルの iBooks である。インデントはもちろん、注釈

の表示などもする。オーディオやビデオを埋め込んだ ePubにも対応している。その代わり、アプリが重い。

紀伊國屋書店の Kinopy には iOS 版もある。こちらは電子化された本を表示するのに特化されているので、表示が美しく動きも軽快である。

同様の仕様のアプリに BREADER がある。こちらは有料だが、軽快な上に「青空文庫」から、直接 zip ファイルをダウンロードして、電子書籍のレイアウトで表示する機能が付いている。

BREADER 用おまけツール brc を使用すれば、自分でスキヤンした紙の本の画像から文字位置を検出して、BREADER で読みやすい大きさの字に表示できる。内蔵辞書の起動も軽快なので、試してみる価値はあるだろう。

PDF 形式の電子書籍を開く際には、「ページ表示」を「単一ページ表示」にすれば、マウスでスクロールするだけで、ページを移動することができる。わざわざ印刷する必要はないのである。ただし、表示される文字がかすれて、とても読みにくいことがある。

その場合、Adobe Reader の「環境設定」から「ページ表示」に移動し、「レンダリング」のすべてのチェックを入れて、テキストのスムージングを「液晶画面用」にすれば、文字のかすれが補正される。

Firefox にはブラウザ上で PDF を開く機能があるが、フォントがかすれて読みにくい場合は、いったんパソコンに保存して

から、Adobe Reader で開き直せばいい。

Kindle for PC

Amazon で販売、および無料配布されている電子書籍は、Amazon が販売している Kindle だけでなく、iOS や Android でも読むことができる。Amazon からダウンロードした縦書きのファイルは、当然のことながら問題がない。

ただし、自作の ePub を無料の Kindle プレビューツールで mobi に変換した場合、iOS に限ってだが、縦書きの電子書籍が横書きに表示されるという問題があった。その場合でも、デバイスの設定を Kindle for iOS にしておくと、iOS でも縦書き表示が可能な、azk ファイルに変換してくれるはずなのだが、たいいてい変換に失敗する。そのため、自作のファイルは、iOS

では横書きでしか表示されないと考えた方がいい。

パソコンでも、現在では mobi が読めるようになった。Kindle for PC の日本語版が公開され、無料でダウンロードすることができる。目次やしおり、メモ、検索などの基本的機能と、白・セピア・黒からの背景の選択、フォントの大きさの調節、他の Kindle デバイスとの同期など、一通りのことはできる。辞書の『大辞泉』が利用できるので、選択した語の意味が自動で表示される。

mobi ファイルがパソコンで縦書き表示されるようになり、個人で Kindle 用のファイルを作成するユーザーには、フラストレーションからの解放となった。見た目もよく、しかもカラー表示される。ルビや縦中横の文字なども問題がない。タブレット

ト端末での表示を考えると、指でめくれるようにしたいところだが、現状では左右の指定された位置に触れるか、キーボードでの操作となる。

「青空文庫」形式のテキストファイルを、Kindle for PC で読む場合、まず JAVA をインストールし、Kindle Gen を適当な場所に展開しておく。さらに AozoraEpub3 を解凍し、分かりやすい場所に展開する。そのフォルダの中に AozoraEpub3.jar というファイルがあるのを確認したら、KindleGen のフォルダから KindleGen というアプリケーションファイルをコピーし、AozoraEpub3 のフォルダにペーストする。これで前段階での準備が整う。

AozoraEpub3.jar をクリックして起動したら、「青空文庫」からダウンロードしたファイルを、下部の枠内に放り込む。その際、「使用したい端末」で、Kindle PW を選択しておく。変換前確認として、タイトルのふりがななどを記入して変換すると、Kindle 用の mobi ファイルが生成される。これをドキュメントフォルダ内の下部フォルダ My Kindle Content 内にコピーする。Kindle for PC を起動したら、ライブラリをクリックし、「青空文庫」のファイルを選択すればいい。

なお、「青空文庫」のファイルの多くは、Amazon からすぐに読める形で、無料でダウンロードできるので、ここで述べた作業は、Amazon で配布されていない場合に行えばいい。

文学作品の入手先としては、他に日本ペンクラブによる「電子文藝館」がある。そこで公開されている PDF を、mobi に変更する方法を以下に述べる。

まず、PDF から本文の部分をコピーして、テキストファイルを作成する。ここで、問題となるのはルビの扱いである。ルビは「経(つね)子」のように() が用いられているので、ワープロやエディタの一括変換で、ルビの形式を、青空文庫形式の《 》に改め、「経《つね》子」のように変更する。ただし、() はルビ以外に、挿入句に用いられている場合もあるので、その箇所は手動で訂正することになる。あとは、先述した方法で、Kindle 用の mobi ファイルに変換すればいい。

こうした作業が面倒なら、青空文庫形式のルビを持つテキストファイルに変換した後、iTunes で iOS のアプリ bREADER の

ファイルとして、iPhone や i-Pod touch に転送して読めばいい。

電子書籍 ePub3の脚注

個人で電子書籍を作る場合、最も容易なのは、ジャストシステムのワープロソフト「一太郎2012承」以降を用いる方法である。

「一太郎」で脚注を設定する場合、そのままの形で反映されるのは、PDF形式の電子書籍を作成した場合である。脚注は本文と同じページに表示される。

では、ePub3の電子書籍に変換した場合は、どのように表示されるのだろうか。実は携帯端末のアプリ、パソコンのソフトウェアによって、大きく異なるのである。

iOS がインストールされている携帯端末で、脚注が快適に表

示されるのは、アップルの純正アプリ iBooks である。脚注の印に触れると、脚注のページが飛び出し、終了のボタンを押すと、直前に読んでいた文に戻る。内蔵辞書で語句を調べるときと同じ要領である。

紀伊國屋書店のアプリ Kinoppy の場合、脚注の印に触れると、巻末の注に飛ぶので、直前に読んでいた部分に戻るには、「戻る」の印に触れればいい。

「青空文庫」と ePub が読めるアプリ BREADER の場合、現時点では脚注には対応していない。脚注の印に触れても、リンクとしては機能しない。手動で巻末の注に移動した場合、手動で直前に読んでいた文に戻るしかない。

次に、パソコンの場合について述べよう。Google の chrome で ePub3 を開くには、Readium というアドオンを組み込む必要があるのは、先述した通りである。

使い方の概要を述べておこう。事前に ePub をダウンロードしておく、chrome を起動したら、「アプリ」の文字をクリックする。さらに Readium をクリックすると、電子書籍を表示するページが立ち上がる。上のバーの＋印をクリックし、From Local File から、パソコンに保存されている ePub を選択すると、Google の chrome で ePub を読むことができる。脚注の印にマウスを合わせたら、右クリックして「新しいタブで開く」ようにする。本文のタブと注のタブを、移動すればいいわけである。

firefox にアドオンの EPUBReader を組み込んだ場合は、注釈の印に触れると、巻末の注に飛ぶので、読み終わったら注のリンクをクリックすれば、直前に読んでいた部分に戻る。パソコン用の kinopy を使用する場合も、も、firefox と同様の操作方法をとる。

Windows8のアプリ EPUB Reader は、脚注ばかりか目次にも対応していないので、長い作品を読むのには向いていない。

最近の読み上げソフト

僕は podcast をやっているので、試みに自作を音読して録音してみた。部分的には満足しても、全文を淀みなく読むのには苦勞する。やはり、俳優が読むようにはいかない。

ジャストシステムの「一太郎2013」以降のプレミアム版には、読み上げ機能「詠太」というソフトが付属している。これは田に組み込んで、ニュースを読み上げさせるのに良い。人の声にかなり近い。漢字の読み間違いは多少あるし、アクセントが時々おかしいから、外国人に朗読してもらっている感じである。ただし、辞書登録機能がついており、これを利用すれば、漢字の読み間違いは、限りなくゼロに近づけさせられる。IMEに

入っている語を、まとめて登録することも可能で、その具体的な方法については、「推敲について」の章ですでに述べた。

ここでは、「詠太」の辞書登録機能のうち、「アクセントを付ける位置」に符号、を振る機能について述べよう。ただし、日本語は強弱アクセントではなく、高低アクセントだから、「アクセントを付ける位置」と言われても、一般の人によく分らないだろう。

日本語の東京方言では、最初の音（正確には「拍」）と次の音（拍）に音の高低がある。ただし、下げるのだけははつきり発音し、上げる方は無理に上げると不自然になる。『新明解国語辞典』には、各単語の「アクセント核」（高い音から低い音に移る直前の音）が書いてある。「箸」は①なので、「は」が

高く、「し」が低い。「橋」は②なので、「は」が低く「し」は高く、次に来る助詞でようやく下がる。「橋が」の場合、「し」と「が」の間に高低差が現れるのである。ちなみに、「端」の場合は、「端が」の「が」も高いままなので、「アクセント核」がゼロということになる。

そこから考えると、「詠太」の「アクセントを付ける位置」に符号を振るというのは、「アクセント核」の直後に符号の、を入れる、という意味であることが分かる。

「詠太」の利点を付け加えれば、一太郎文書の場合は、ルビも正確に読んでくれるから、原稿の校正で誤植を発見するのも役立つ。優秀なソフトではあるが、録音機能はついていない。他のソフトを併用すれば不可能ではないが。

また、「詠太」による読み上げは、あくまでも個人利用に限られるという条件なので、録音したものを公開することはできない。この種の読み上げ機能は、一部のフリーソフトを除けば、あくまでも個人利用に使用範囲を制限しているのである。

その他の読み上げソフトを紹介しよう。PDFを開く Adobe Reader には、アクセシビリティの設定項目があるが、通常は英語の合成音声しか使用できない。視覚障害者の場合、マイクロソフトから「日本語音声合成エンジン」の提供を無償で受けられる。ただし、健常者は対象外である。有料版の「ドキュメントトーカー日本語音声合成エンジン」の購入を求められる。かつて、Office XP には日本語の text-to-speech (TTS) が装備されて

いたから、それをお持ちの場合は試せるわけだが。

では、「詠太」を持っていないと、読み上げソフトを試用できないのかというと、そうでもない。僕は最近、JukeDox2 Free という無料のソフトを見つけた。テキストファイル以外でも、ワードや一太郎、PDF、html や epub など数多くのファイルを読み込むことができる。録音機能はフリー版にはついていないが、読み上げ機能はレベルが高い。

残念なのは、ルビをルビとして認識せずに、漢字とルビの部分を二重に読んでしまう点である。これらの弱点をカバーしているのが有料版で、試しに買うほど安くはないが、機能面では「詠太」より充実している。ただし、こちらのソフトも、個人ユーザー向けは、あくまで個人として使用するのが前提である。

音声ファイルの公開はできない。

「東京ブックフェア」に出かけて、電子出版関連の展示を中心に見て回ったときのことである。スマートフォンで気軽に読めるようになり、電子書籍の ePub も、以前よりは認知されるようになった。文字情報や画像を組み込むだけなら、ジャストシステムの「一太郎」を用いて、個人で作ることも可能である。ただし、音声や動画の組み込みとなると、ハードルが急に高くなる。文字情報や、画像、音声や動画を持ち込んで、ePub を作成する有料サービスが目をつけた。

読み上げソフトの声は、機械的な合成音から、かなり人間の声に近いものになった。自然な読み上げにも驚いたが、目を引いたのは、個人の声のサンプルから、「ユーザーデザイン音声合成技術」を用いて、ePub を読み上げるという技術である。ただし、サービスを依頼するには、それなりの費用がかかる。個人の声で聞きたいなら、相手に読んでもらえばいいわけだし、機械に読んでもらいたいなら、「詠太」や JukeDox²を使う方が実用的だろう。

電子書籍を再編集する

実際に電子本を配信した後、誤植に気づくことがある。部分的に書き直す程度だったら、「一太郎」で編集して出力し直せばいいのだが、一章を付け加えらるとなると、エラーは避けられないという結論に至った。

ブログが一般化する以前、僕はホームページを運営していたことがあった。ワードや一太郎で文章を書き、画像を張ってから、HTMLに変換する方法もあるのだが、あとで編集し直す時、不必要なタグが重なり合って、レイアウトがすっかり崩れてしまうのである。それに懲りてから、ホームページの原型となるHTMLの中に、自分の文章を流し込む方法をとるようになった。

なった。

電子書籍の話に戻すと、ePubに一章を挿入するような場合、全文をコピーして、ユニコードに対応したエディタ、Windowsのメモ帳などにいったん貼り付ける。この際、ワープロを使うと、エラーの原因となる情報までコピーしてしまうので、エディタにユニコードテキストで貼り付けるのがこつである。

それをさらにコピーして、新規作成した一太郎ファイルに貼り付けるのである。ルビなどは（ ）の中にくくられているので、面倒ではあるが改めて設定する。電子本の編集作業をいかにやり直すのである。手作業となるのだが、楽をしようと思つて、エラーの原因が分からず苦闘するよりは、よほど短時間で問題を解決できるのである。

PDF ファイルだけを作成するのであれば、このような作業は経ることなく、元の「一太郎」ファイルに一章を挿入し、目次を設定し直して PDF で出力しても問題は生じない。

一太郎2016について

ジャストシステムから「一太郎2016」が発売された。Windows 10に正式に対応したという。今回、僕はプレミアム版を購入した。『精選版 日本国語大辞典』が付属しているからである。これは日本最大の国語辞典『日本国語大辞典』全十三巻＋別巻から、重要な語三十万語を収録して、全三巻に再編集したもので、一冊でも百科事典ほどの重さがあり、全三巻で五万円もするものを電子辞書の形で、ジャストシステムの IME である ATOK に組み込んだものである。

また、ATOK 付属の辞書は、「一太郎」以外のソフトウェアでも使用できるようになった。調べたい言葉を選択して、Ctrl

キーを二回押すだけで、意味を説明するウインドウが表示される。自然な日本語の発音で定評のある読み上げソフト「詠太」は、今回は英語にも対応したので、IEで表示されたニュースをネイティブの発音で読んでもらえる。

もう一つ関心を持ったのは、電子書籍作成機能がより充実し、書籍の表紙のテンプレートもたくさん付いたことである。グラフィックソフトを使わずに、手軽にプロ仕様の表紙が作成できるといふ触れ込みである。電子書籍自体の作成も簡便化され、本書で述べてきた方法をとらなくても、「EPUB 書籍編集ツールパット」を用いれば、直観的に作れるようになった。

まず、「1太郎2016」の右端の「メニュー」をクリックし、「オプション」で「書籍編集」が表示できるようにする。「1

太郎2016」を終了し再起動すれば、パレットに「EPUB 編集ツールパレット」が表示されるようになる。「EPUB 書籍編集ツールパット」から「EPUB テンプレート」を開き、「中扉」に題名を書き、本文に原稿を流し込み、「奥付」に必要事項を記したら、「文書スタイル」で好みのスタイルを選択し、「表紙ギヤラリー」を開いて、適当なテンプレートを選んで、タイトルと作者名を記す。いったん「1太郎」ファイルとして保存した後、ePub として出力する際に、シートの中から先ほど加工した「表紙」を選択し、必要事項を記して ePub 形式で保存すればいい。

その際、注意すべきことは、本文が表示された状態で保存することである。表紙が表示されたままでは保存すると、表紙だけ

で本文が空のファイルが作成されてしまう。KindleやPDFも、この方法をとればいい。

もちろん、長い作品の場合には、改ページの記号を打ち込んだり、「目次」を設定したり、リンクを張ったりする作業は必要となるが、短編だったら瞬間に立派な電子書籍が完成する。aPubを作成した場合、パソコン用のKinoppyで表示すると、ほとんどプロ仕様の表示となる。

ただし、PDFの場合は字が小さいと画面では見づらい。印刷する場合と、電子書籍として作成する場合とで、設定を調節する必要がある。

では、「電子書籍の作成」の章で述べた方法を取る場合でも、

「一太郎2016」に付属した表紙だけ使えないかと考えた。その方法を以下に述べることにする。

「一太郎2016」の「EPUB編集ツールパレット」を表示したら、「表紙」から「表紙ギャラリー」をクリックし、適当な「表紙シート」を選択する。「表紙シート」には「小説」「ビジネス書」「広報誌」のジャンルがあるので、いずれかの中から好みの「表紙シート」を選択すればいい。「タイトル」と「著者名」の位置に自身の作品の「タイトル」と著者の名前を上書きする。それが済んだら「ファイル」→「他形式で保存／開く」から「画像に変換して保存」をクリックして保存する。これで表紙にする画像が作成される。

その上で、「電子書籍の作成」の章で述べた方法でレイアウト

トを済ましたら、本文の入った「一太郎ファイル」を ePub に変換する段階で、作成した画像を表紙として指定すればいい。

また、PDF 形式の電子書籍の場合は、作成した「一太郎」ファイルで、「ファイル」「文書スタイル」「スタイル」とたどり、「ページヘッダ・フッタ」のタブをクリックし、「ページ番号詳細」をクリックして、「表紙用ページを使用する」の項目を設定しておく。それから、事前に「画像に変換して保存」した表紙の画像を、「表紙用ページ」に貼り付ければいい。

おわりに

電子本の作成から公開するまで、僕が知る限りの情報はすべて述べた。不明な点があれば、インターネットで検索していただきたい。今回、作成した電子本は、ここで述べてきたように、Secaa の僕のブログに連載した記事をもとにした。皆さんもぜひ、自身の電子本をインターネットで公開して、情報を発信する喜びを味わってみて下さい。

第四版においては、「一太郎2013玄」で対応した ePub の「固定レイアウト」や、アマゾンの読書端末 Kindle 用の mobi ファイル、プレミアム版についている読み上げ用アドオン「詠太」

などについて加筆した。

第五版においては、「一太郎2016」で追加された機能のほか、ePubの固定レイアウトとPDFの違い、ePubの脚注の問題、「詠太」のアクセント記号と、他の読み上げソフトの機能、さらに、書籍を再編集する場合の注意などについて加筆した。古くなった情報は削除し、リンクが古くなったものは張り直した。

二〇一六年二月十六日

高野敦志